

# 埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7  
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>  
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

## 令和3年度 埼玉県医師会 臨床検査精度管理調査試料の発送作業に参加して

令和3年度埼玉県医師会臨床検査精度管理調査試料の発送作業が2021年9月4日(土)に行われました。

スタッフとして参加された会員の方の感想文を掲載します。

自治医科大学附属さいたま医療センター  
小島 朋子

令和3年9月4日土曜日、秋の訪れを感じる雨がつたう中、令和3年度埼玉県医師会臨床検査精度管理調査の試料の梱包及び発送作業に初めて参加しました。新型コロナウイルス感染対策として、入口での体温測定とアルコール手指消毒後の受付、マスク・フェイスシールドの着用、会場の窓を開放し常時換気の上で行われました。

会場に到着した時には既に多くの方が準備を進めておられました。定刻になると神山会長の挨拶及び山口精度管理委員長の説明があり、いよいよ梱包作業が開始されました。

私は試料を入れる梱包材の組み立て、書類の準備、梱包済の試料を発送用の袋に入れる作業を担当しました。自分の出来ることを着実かつ効率的に行わなければならないという緊張感をもって臨んだ一方、各施設に必要な試料を着実に準備していく先輩方の様子に圧倒されてしまいました。多くの方の努力と協力あってこそ本事業が成立することを肌身に感じる事ができました。

おわりになりますが、梱包・発送作業に参加されました理事・研究班の皆様、その他関係者の皆様、本当にお疲れ様でした。

防衛医科大学校病院  
中山 智史

2021年9月4日(土)、早朝から悪天候の中、令和3年度埼玉県医師会精度管理調査の試料梱包および発送作業が行われました。今回、私が参加するのは研究班に所属をして初めてのことでした。以前から参加している研究班員から作業内容などの情報を事前に聞いていましたが、神山会長はじめ、各理事の方々および各研究班員が一堂に介するという緊張感までは想定外でした。また、新型コロナウイルス感染防止対策のため全員がマスクおよびフェイスシールドを着用の上、必要以上の私語は慎みながらの実施でした。

定刻となり、神山会長のご挨拶、山口精度管理委員長より作業の説明、注意事項の確認があり作業開始となりました。

作業内容は研究班ごとに事前に登録施設への配布リストが準備されており、それを各研究班員が確認をしながら施設ごとに必要試料の梱包を行いました。作業自体はシンプルかつスムーズに進んでいきましたが、登録施設が200以上ある中でひとつでもミスをするところまで梱包したすべてを見返す可能性があり、各部門がリストを複数人で目を皿のようにして確実に作業を行っており、今回の作業の重要性和責任の重さが感じられるものでした。

今まで参加するだけの側だった私も背景にはこういった作業があり、多くの方々がいることを知る貴重な経験となりました。

最後になりますが、梱包および配送作業に携わられた理事・各研究班、その他関係者の皆様、本当にお疲れ様でした。

越谷市立病院  
杉村 楓

令和3年度埼玉県医師会臨床検査精度管理調査の試料梱包・発送作業に初めての参加となりました。感染対策のため受付時には消毒、そしてフェイスシールドを装着しながらの作業となりました。作業開始前に神山会長よりご挨拶をいただき、続いて山口精度管理委員長から作業内容や注意事項の説明を受けた後に作業が始まりました。

まず、試料を詰めるための箱と枠を組み立てていきました。組み立てた箱には施設名が記載されたシールが貼られ、各研究班にて用意した試料を詰めていきました。私は臨床化学部門でHbA1cの試料詰め作業をしました。200施設以上の試料を間違いがないよう正確に箱に詰めていき、内容のチェックをし、次の部門へひたすら流していくという作業でした。スタートが臨床化学担当からだったので、焦ることなく自分たちのペースで進めることができました。学生時代の派遣のバイトを思い出しながら、楽しく作業をしました。

作業場所が建物の2階であったため、梱包が終わると試料を1階に移動しなければなりません。全員が一列になりバケツリレー方式で一致団結して運んだのがとても印象に残っています。

毎年、精度管理調査は研究班員や理事、賛助会員等、多くの方々の協力があって成り立っているのだなと改めて知ることができ、とてもよい経験になりました。この度はありがとうございました。



箱詰め作業



トラックへの詰め込み

## 第49回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催方式：ハイブリッド  
(現地開催+Webオンデマンド配信)

開催日：令和3年12月5日(日)

会場：大宮ソニックシティ

テーマ：前進

サブテーマ：～新・時代への発信～



学会公式LINE  
アカウント

### 「市民公開講演のお知らせ」

第49回 埼玉県医学検査学会  
運営部 杉村 楓

10月に入り肌寒い日が増えてきました。早いもので本学会の開催まで残すところ約2ヵ月となりました。今回は市民公開講演のお知らせです。

市民公開講演第一部は「尿1滴で『がん』を早期検知！～線虫が人類を救う 革新的がん検査～」というテーマで株式会社HIROTSUバイオサイエンス研究開発企画室室長の平野大祐先生にご講演いただきます。大きさ僅か1mmの線虫の嗅覚を活用した、新しいがん検査法である「N-NOSE」。簡便、高精度、安価、早期発見可能、苦痛がない、がん種網羅的という特徴があり、従来のがん検査に比べて気軽に受けることができます。「N-NOSE」とはどのような検査か、今後の展望についてお話しさせていただきます。

市民公開講座第二部では「薔薇 どんな名前と呼ばれようが... ～低侵襲手術・臓器温存手術の真実とは～」のテーマで医療法人社団協友会メディカルトピア草加病院院長の金平永二先生にご講演いただきます。1990年代、世界中で低侵襲手術が開発され始めた黎明期にドイツに渡り、臨床経験を積み、画期的な手術法である経肛門の内視鏡下マイクロサージェリ(TEM)を習得し帰国。以来30年に渡り、低侵襲手術一筋の職人として走り続けてきた半生を振り返りながら、低侵襲手術、臓器温存手術についてお話しさせていただきます。学会のサブテーマである「新・時代への発信」にぴったりの2つの講演です。現地でWebで多くの皆様のご参加をお待ちしております。

### 「発表用スライドデータの送付方法について」

第49回 埼玉県医学検査学会  
事務局 吉成 一恵

発表者の皆様へ発表動画の送付についてお知らせします。

動画の登録は、ご登録のアドレスへ投稿サイトのURLを送信しますので、そちらからお願いします。

発表動画のアップロード期間は10月1日～11月19日です。

詳細は登録案内メールに「投稿マニュアル」もお送りしますのでご確認ください。

埼玉県医学検査学会にて初のWeb発表となります。音声付きの動画を実行委員一同、とても楽しみにお待ちしております。

まだまだこれからも埼臨技Twitterや学会LINE、学会ホームページ等で情報発信していきますのでお見逃しなきようお願いいたします。

## 検査室管理運営研修会 報告

### テーマ タスク・シフト／シェア あなたの施設なにから始める？

実施日時：令和3年9月22日 19時00分～

会 場：Web開催

講 師：大竹 京子（医療法人社団富家会 富家病院）

菊池 裕子（医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院）

笹野 勝年（社会医療法人 熊谷総合病院）

参加人数：会員69名

令和3年度第1回目の本研修会が、昨年度同様、Webにて開催された。

日臨技では医師・看護師の働き方改革を目的に、臨床検査技師のタスクシフティングが推進されている。今回は、3施設からタスク・シフトできる業務や可能性について紹介された。

講演1の大竹氏からはまず、タスクシフティング業務の概要についてふれ、厚生労働大臣指定講習会のWeb開催や実技講習会の紹介などもあった。そして、18項目の現行制度で実施可能な業務における自施設の事例について報告された。

講演2の菊池氏からは救急支援と新型コロナ対応のタスク・シフト／シェアの事例紹介と経験した臨床検査技師スタッフと他部署スタッフの自己・他者評価のアンケートを実施し、臨床検査技師の次へのチャンスの可能性があると示唆する報告がされた。

講演3の笹野氏からは現在実行する取り組みについての紹介であった。病理検査の切り出し業務や不妊治療補助等、貴重な事例の報告であった。

2024年からの医師の働き方改革の本格始動をうけ、早急に取りかからねばならない課題である。しかしテーマのごとく何から始めるか、お悩みの施設が大多数と思われる中、臨床検査技師の業務拡大のチャンスと捉え、今回の研修会の内容が、少しでも役に立てば幸いである。

（文責：小林こずえ）



## 研究班研修会報告

### テーマ 腎臓が好きになる④ ～腎疾患～

主催 一般検査研究班

実施日時：令和3年8月5日 19時00分～20時00分

会 場：Web開催 点数：専門教科－20点

講 師：藤村 和夫（埼玉県済生会川口総合病院）

参加人数：会員171名

出席した研究班班員：藤村和夫 室谷明子 小関紀之 柿沼智史 佐々木菜緒 小針奈穂美  
中川禎己 渡邊裕樹

#### 研修内容・感想など

一般研究班主催の研修会として腎臓が好きになる④～腎疾患～がWeb環境で開催された。講師は、藤村氏に腎生検の適応や禁忌、診断の流れについて症例を交えての講演であった。

診断の流れとして、最初に尿定性や尿沈渣などの検査所見や症状、臨床経過から症候診断名を判断する。症候診断名には、急性腎炎症候群や急速進行性腎炎症候群のように急速に経過するものや、慢性腎炎症候群などのように慢性的に経過するものが含まれる。次に症候診断名を決定後、腎生検の可否を判断する。腎生検施行後は病理組織の結果を踏まえて組織診断名を判断するが、腎生検未実施の場合も多種・多様の検査項目で組織診断名の推測に努め、疾患の治療に移る。

腎生検の適応は尿蛋白を伴う顕微鏡的血尿や高度の蛋白尿などの尿所見を認めるもので、腎生検は診断に欠かせないものとなっているが、侵襲性を伴うため、尿路感染などの炎症や片腎、末期腎不全、嚢胞性腎疾患などの病態では禁忌となっている。

症例解説では、症例1はネフローゼ症候群により腎生検となり、組織診断名はメサンギウム増殖性糸球体腎炎であったIgA腎症の症例であった。ネフローゼ症候群は微小変化型、膜性腎症が大半を占めるが、今回の症例のメサンギウム増殖性糸球体腎炎も少ない割合で存在する。症例2は、ANCA関連血管炎による急速進行性腎炎症候群であり、腎障害は高度であったが、腎委縮を伴っていたため、腎生検の適応とはならなかった症例であった。急速進行性腎炎症候群は一次性（原発性）と二次性に分類されANCA関連血管炎は二次性に含まれる。ANCA関連血管炎はMPO-ANCA, PR3-ANCAのいずれかを陽性とする疾患群であるが、全身性や局所性を示すものなど病態は複雑である。

検査に携わる検査技師にとって、検査から診断までの流れを理解することの重要性について再確認できた。今回勉強した内容を、日常に一般検査に携わる方のみならず認定一般検査技師試験を控える方にも今後活かしてほしい。

（文責：渡邊裕樹）

テーマ **凝固検査の基礎知識****「若手検査技師と夜間当直者のための凝固検査の基礎知識」**

主催 血液検査研究班

実施日時：令和3年8月19日 19時00分～20時30分

会 場：Web開催 点数：専門教科－20点

講 師：須長 宏行（積水メディカル株式会社 カスタマーサポートセンター学術企画グループ）

参加人数：会員171名

出席した研究班班員：中山智史 原誠則 網野育雄 神成千晴 軍司雅代 澁川絵美 星聖子  
堀内雄太 加藤鉄平

## 研修内容・感想など

まず真空採血管取り扱いの基礎知識として、採血管の種類と取り扱い時の注意点、オーバーキャップタイプの採血管の有用性について、オーバーキャップタイプは検体部分への接触防止や飛沫防止等、採血者、検査室双方にメリットがあり、今後新しい採血管を導入する機会があれば検討してみたいと感じる内容であった。

標準採血法ガイドラインが2019年3月に改定され、その中でも採血法の選択の重要性についてお話があった。注射器採血には針刺しや検体凝固等のリスクがあり、改訂版では採血法の第一選択としてホルダー採血が示された。ホルダー＋翼状針採血により神経損傷のリスクが軽減される等メリットが多くあるが、チューブ内のデッドスペース分の採血量が不足するというデメリットを理解したうえで使用しなければならない。

採血手技が測定値に与える影響として、溶血、駆血、検体量等が挙げられ、溶血により偽高値または偽低値になる項目や、駆血により偽高値になる項目を示され、静脈採血での駆血は1分以内が望ましいとのことであった。採血量不足により影響が出る主な項目として、APTT延長、PT短縮等、凝固検査への影響が大きい。

凝固検体取り扱いに関するコンセンサスとして、採血から血漿分離、測定、保存について詳しく解説された。特に、採血後の検体（遠心分離前）は18～25℃の室温で保存し、速やか（1時間以内）に遠心分離、遠心分離では残存血小板数が1万/ $\mu$ l未満になるよう遠心機を設定することが重要となる。凍結保存する場合は－75℃以下が望ましく、融解する際は37℃水浴中で3～5分の急速融解が良いとのことであった。

遭遇する可能性のある凝固検査の異常値として、採血困難時のFDP、DDの偽高値や、ヘパリン混入時の異常延長等があり、これらは日常の検査において常に注意すべき項目である。

最後にCOVID-19陽性患者では、LA検査実施した内の91%で陽性であったこと等、新型コロナウイルス感染症と関連した話題が提供された。

質疑応答では多くの質問が寄せられ、それぞれ丁寧に回答され、若手検査技師のみならず、全ての検査技師にとって今後の業務に活かしてほしい。

(文責：澁川絵美)

**テーマ 認定試験直前!! 細胞診セルフチェックシリーズ 第一弾 婦人科編**

主催 細胞検査研究班

実施日時：令和3年8月24日 18時00分～19時00分

会場：Web開催 点数：専門教科-20点

講師：山崎 泰樹（獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科）

船津 靖亮（株式会社 正和ラボラトリー）

参加人数：会員137名

出席した研究班班員：加藤智美 山崎泰樹 鶴岡慎悟 船津靖亮 松内萌 急式政志

稲山拓司 野本伊織 猪山和美

**研修内容・感想など**

昨年まで「細胞診基礎コース」として顕微鏡実習を中心とした研修会を行なってきたが、感染拡大防止のため、例年10月開催の「初心者セミナー」とを合体させ8月～10月まで隔週・5回に分け「認定試験直前!! 細胞診セルフチェックシリーズ」と題しWeb開催した。

今回はその第一弾として「婦人科」をテーマに、子宮頸部と子宮内膜・卵巣の2部構成で行った。内容は研修会の冒頭にスライド問題10題を供覧し、その後問題の解答およびその解説、細胞の見方について子宮頸部を山崎氏、内膜・卵巣を船津氏が講義された。

県内の参加者(59名)に加え、全国から幅広く参加があり(78名)、細胞検査士資格試験に向けて勉強中の技師のみならずぜひ日常業務にも役立ててほしい。

**<当日のスケジュール>**

18:00～ スライド問題10題の供覧

18:10～ 婦人科①（子宮頸部）

18:30～ 婦人科②（子宮内膜・卵巣）

19:00 終了

(文責：猪山和美)

**テーマ 基礎から学ぼう!!**

主催 微生物検査研究班

実施日時：令和3年8月27日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 点数：基礎教科-20点

講師：今井 芙美（埼玉県立がんセンター）

佐々木 真一（ビー・エム・エル株式会社）

参加人数：会員63名

出席した研究班班員：渡辺典之 永野栄子 岸井こずゑ 酒井利育 小棚雅寛 千葉明日香

**研修内容・感想など**

今回の研修会では“基礎から学ぼう!”をテーマにお二人の講師をお招きした。

はじめに「グラム染色の基礎から推定菌報告」というテーマで今井氏が講演された。グラム染色は感染症治療における抗菌薬選択で、重要な役割を担っている。迅速に起因菌を推定することが可能であり、低コスト、試薬と顕微鏡さえ揃えば実施することができるため非常に有用性が高い検査である。また手技が簡便なため、日当直者など普段微生物検査に従事していない者でも行うことができる。グラム染色は主にバーミー法とフェイバー法の2つが用いられてい

る。バーミー法は染色ステップが多いが、染色性は良好である。一方フェイバー法は染色ステップが少なく、簡便であるがバーミー法に比べ染色性は劣る。どちらもメリット・デメリットがあるため、各施設にあった方法を選択することが重要であると感じた。講義では、適切な標本の作り方から血液培養や喀痰、髄液の頻出菌のグラム染色像もスライドで多数提示があり、日々の業務に役立つ内容であった。

続いて「同定の基礎～自動機器のピットホールを含めて」というテーマで佐々木氏が講演された。腸内細菌科細菌の同定に用いる性状確認培地の基礎から、自動機器の測定方法まで幅広い内容であった。埼玉県内でも質量分析装置を含む自動機器の導入が増えており、性状確認培地の使用頻度は減少傾向にある。しかし自動機器の多くはパネル上で生化学的性状を確認し、同定検査を実施しており、自動機器を使用する上で生化学的性状に関する知識は必要である。各自動機器の特性を理解し、同定結果が出なかった菌に対しては、もう一度基礎に戻って、コロニーの確認や生化学的性状検査を追加することが大切であると改めて感じた。

(文責：千葉明日香)

## テーマ **認定試験直前!! 細胞診セルフチェックシリーズ** **第二弾 呼吸器・消化器編**

主催 細胞検査研究班

実施日時：令和3年9月7日 18時00分～19時00分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講師：野本 伊織（埼玉県済生会川口総合病院）  
遠山 人也（熊谷総合病院）

参加人数：会員162名

出席した研究班班員：加藤智美 山崎泰樹 鶴岡慎悟 船津靖亮 松内萌 急式政志  
稲山拓司 野本伊織 猪山和美

研修内容・感想など

前回の第一弾に続き、今回は第二弾として呼吸器領域と消化器領域をテーマに、「認定試験直前!! 細胞診セルフチェックシリーズ第二弾呼吸器・消化器編」と題しWebで開催した。

内容は前回は踏襲し、冒頭に呼吸器10問・消化器9問を供覧し、遠山氏が消化器9問、野本氏が呼吸器10問の解答を解説された。タイトなタイムスケジュールの中、対比症例を用いて詳細な鑑別、細胞検査士認定試験過去問から出題傾向を交えて解説があり、今回も全国から多くの参加者が集まった。

<当日のスケジュール>

18:00～ スライド問題供覧（2回供覧）

18:20～ 消化器解説

18:45～ 呼吸器解説

19:00 終了

(文責：鶴岡慎悟)



令和3年度  
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会  
第6回 理事会議事録

日時：令和3年9月9日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告      Ⅱ. 報告事項  
Ⅲ. 承認事項      Ⅳ. 議題

出席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 長澤 山口  
神嶋 松尾 伊藤 笹野 松寄  
石井 神戸 阿部 久保田  
長谷川

(監事) 遠藤

Zoomにて出席

(理事) 矢作 長岡 菊池 飯野 塚原  
(監事) 細谷

欠席：(理事) 小山 濱本

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は20名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

#### Ⅰ. 行動報告 (令和3年8月12日～令和3年9月8日)

8月9日(月) 事務所巡回：小山

8月12日(木) 令和3年度第5回理事会：

神山、矢作、松岡、猪浦、濱本、  
長澤、山口、神嶋、松尾、伊藤、  
笹野、塚原、松寄、石井、神戸、  
阿部、長岡、久保田、長谷川、  
飯野、遠藤

8月17日(火) 日臨技理事会：神山

8月20日(金) 第49回埼玉県医学検査学会実行委員会：神嶋

8月20日(金) 新入会員向けWeb研修会録画配信作業：伊藤、笹野、塚原

9月2日(木) 第4回表彰・選考審査委員会：  
神山、矢作、松岡、猪浦、小山、  
濱本、長澤

9月3日(金) 女性技師企画研修委員会：

猪浦、山口、菊池、伊藤、石井

9月4日(土) 令和3年度埼玉県医師会精度管理  
発送作業：

神山、松岡、猪浦、小山、濱本、  
山口、菊池、塚原、松寄、神戸、  
阿部

9月6日(月) 生涯教育プログラム登録作業：  
長谷川

#### Ⅱ. 報告事項

##### 1 事務局

- 1) 8月29日に行われる予定であった、日臨技主催タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会(実務担当者対象)が延期となった。それに伴い9月12日に行う予定であった、第1回講習会も中止となった。
- 2) 臨地実習指導者講習会グループワーク参加日について、当会より推薦した菊池理事、塚原理事に日臨技より推薦受理ならびに参加についての返信があった。
- 3) 9月2日(木)、令和3年度第4回表彰・選考審査委員会を開催した。(別紙資料1)
- 4) 厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課より日臨技に「世界アルツハイマー月間」普及イベントへの参加依頼があり、埼臨技HP、Twitterの背景色の変更とバナーを設置した。

##### 2 総務部

- 1) 9月15日(水)、埼臨技だより第508号発行予定
- 2) 第52回埼玉県医学検査学会会場としてソニックシティに予約申請書を提出した。

##### 3 事業部

- 1) 8月20日(金)、7月30日(金)に開催された新入会員向けWeb研修会の録画を配信した。(別紙資料2)

- 2) 全国「検査と健康展」(埼玉会場)(11月13日(土)開催予定)となる浦和コルソに中止の連絡と、レンタル予定であった検査機器キャンセルの手続きを行った。

- 3) 8月30日(月)、深谷市福祉健康まつり参加団体紹介の原稿と写真を深谷市役所へ提出した。

##### 4 学術部

- 1) 第49回埼玉県医学検査学会より座長推薦依頼があり、研究班へ選出をお願いした。

- 1) 9月6日(月)、生涯教育プログラム10月・11月分の行事登録(日臨技システム)を完了した。

##### 5 精度保証部 特になし

##### 6 会計部

- 1) 令和3年度正会員費16名80,000円、入会金16名16,000円、合計96,000円の入金があった。
- 2) Microsoft365更新料の追加分11,880円を支払った。
- 3) メディア・プロモーション・サービス株式

会社へ会員名簿（CD-ROM）作成費  
144,000円を支払った。

- 4) 石井印刷に埼臨技だより第507号印刷代  
148,005円、角2封筒代60,500円、合計  
208,505円を支払った。

### 7 精度管理委員会

- 1) 9月4日(土)、令和3年度埼玉県医師会臨  
床検査精度管理発送作業を実施した。

### 8 一都八県会長会議 特になし

### 9 日臨技関甲信支部

- 1) 8月29日(日)開催予定であったタスク・シ  
フト／シェアに関する厚生労働省指定講習  
会関甲信支部研修会が延期となり10月24日  
(日)開催に向け調整中

### 10 日臨技 特になし

### 11 第49回埼玉県医学検査学会

- 1) 8月20日(金)、第49回埼玉県医学検査学会  
第11回実行委員会を開催した。

## III. 承認事項

### 1 事務局

- 1) 会員動向(令和3年度分)

令和3年9月1日現在  
会員数 3,347名[令和2年度会員数3,214名]  
(新入会員 237名)  
賛助会員 75社[令和2年度 78社]  
承認された。

- 2) 令和3年度公衆衛生事業功労者に対する厚  
生労働大臣表彰候補者の推薦について  
埼玉県医療整備課からの候補者の推薦依  
頼に基づき、別紙資料1のとおり推薦した  
い。

上記の件について、神山清志会長から発

言があり、審議の結果、承認された。

- 2) 令和3年度臨時会員総会の開催日、会場に  
ついて

会場の予約状況の関係で、令和4年3月  
15日(火)に大宮ソニックシティ4階401・  
402号室で開催したい。

承認された。

### 2 総務部 特になし

### 3 事業部 特になし

### 4 学術部 特になし

### 5 精度保証部 特になし

### 6 会計部 特になし

### 7 精度管理委員会 特になし

### 8 第49回埼玉県医学検査学会 特になし

## IV. 議題

### 1 事務局 特になし

### 2 総務部 特になし

### 3 事業部

- 1) 令和4年賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会  
(令和4年1月8日(土))開催予定の開催  
について

審議の結果、予定通り開催することで可  
決された。

### 4 学術部 特になし

### 5 精度保証部 特になし

### 6 会計部 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を  
謝して閉会とした。

## あ と が き

あとがきを担当するのは久しぶり（ちなみに前はだより406号でした）です。何を書こ  
うかなと、考えているうちに原稿の締め切りが来ています。

つつい「あとでやろう」と何もかも後回しにする癖が、年々酷くなっています。このだよ  
りをみている方々にも共感していただける人がいると思っています（いや、絶対にいるに違  
いない!）。

季節は秋です。よく〇〇の秋といいますが、私は「脱メタボの秋」として最近になって始め  
た朝のランニングを頑張りたいと思います。ほんと、個人的な感想なのですが、運動したせ  
いか仕事にもメリハリがついた気がします。みなさんも「〇〇の秋」始めてみませんか！

（濱本 記）

